



Vincent de Jaegher



© Raymond Bellaye

ベルギー生まれのヴァンサン・ドゥ・ヤーハーは、幼い頃より絵を描くのが大好きな子供でした。1954年にはわずか12歳で、画家の叔母から油絵の手ほどきを受けています。

芸術愛好家だったヤーハーの父は、自身も巧みな絵を描き、特にその蔵書票は有名でした。非常に洗練された審美眼を持つ人物として、芸術家サークルでも名の通った人物だったので、彼が最も重視していたのは、あらゆるものに本質的に備わっている美でした。

ヴァンサン・ドゥ・ヤーハーの両親は家族の休暇の半分を海や山で、そして残りの半分をフランスやイギリス各地の古城や博物館、美術館を訪ねて過ごすのが常でした。

16歳の時に出会ったクロード・モネとフィンセント・ファン・ゴッホの絵画から、ヤーハーは大きな、そして決定的な影響を受けます。彼は「将来、絶対に彼らのように絵を描こう」と決めます。

まず古典を勉強してから、ベルギーで数年間、美術の勉強を続けました。

またロンドンで1年間暮らして英語を学びました。同時にロンドン大学東洋アフリカ研究学院で日本語の勉強もしています。

その後、アジアに関係する職業につきました。

それまでの学業とは直接関係なかったものの、彼はその後も絵を描き続けました。絵に対する情熱が薄れることは、決してなかったのです。

アジアに魅了された彼は、東京と神戸で1年暮らしました。その後も仕事の関係で50回以上アジアを再訪し、さまざまな国を訪ねました。香港、ソウル、上海、東京に長期滞在し、またアメリカ、特にロサンゼルスも訪問しました。

1994年には親しい友人の一人であるベルギー人コレクターのÉmile Verannemanの紹介で、パリ在住の世界的な中国人画家、趙無極に出会っています。そのアトリエを訪ねての出会いには、二人が共有する絵とアジアに対する愛を確認できた、忘れられない素晴らしい体験でした。ヤーハーにとって、一生を絵に捧げた敬愛するこの画家と対面できたことは非常に大きな意味を持っていたのです。

ヤーハーの考えでは、ターナー、モネ、そして趙無極の作品こそ、絵画芸術の持つ美や本質を見事に表現していました。

充実した現役生活を引退後、彼は変わらぬ情熱の対象である絵に専念する決意を固めました。

2007年には、知人である有名な二人の画家とともに、ベルギーのヴェルヴィエにあるセルール公園で小規模な共同展を開催しました。

その後、勧められてベルギーのナミュールで開催される国際的な水彩画コンクールに参加しました。400人以上が出展したこのコンテストでは、画家名を隠して審査が行われ、入選者は全体の三分之一に達しませんでした。ヤーハーはこのコンクールに優等で入賞し、その作品は2009年に展示されました。

2013年にヴェルヴィエのSociété Royale d' Harmonieのギャラリーで開催された初めての個展では、彼のアクリル画は高い評価を受けています。

画家として、ヤーハーはまだあまり知られていませんが、絵画に対するその大きな情熱は、旺盛な創作意欲に裏付けられています。彼は昔から日に10-12時間、絵筆を持ち続けてきました。独学で絵の修行に邁進してきた彼は、中国人画家の趙無極や曹培安から得たアドバイスも自分なりに消化して取り入れています。

彼のキャンバスには、かつて訪れたアジア各地の雰囲気が見事に表現されています。

彼が取り上げるテーマの大半は、具象的な風景画や抽象画で、見る者を内面への旅に誘っています。

やがて具象表現から、次第に魂に寄り添った絵画表現を追求するようになっていきました。

心の奥に隠された情景や風景を明かし、表現し得ないものを視覚化しようとする努力を通じて、彼はこれまで知られていなかった、エネルギーに満ちた幻想的な世界を描き出すことに成功しました。

ヤーハーは、内面から湧き出て普遍的な世界につながる生命の息吹に耳をすませ、直感に従う勇気を持って絵を描いています。彼の最も親しい友は中国筆です。簡素かつ滑りが良いこの筆は、画家と宇宙の交歓を助けているのです。

彼の絵で最も深い印象を与えるのは、そこから立ちのぼる、燃え上がるような精神性や荒々しいエネルギーでしょう。この力は制御され、鋭い感受性や優美さによって絶妙なバランスが保たれているのです。

大胆かつ創造性に富んだヤーハーは、規則に縛られることを潔しとしません。自由な精神の持ち主である彼は、既存の基準に反抗し、常に新たな発見を求めています。その火のような気性は、鋭い閃光やエネルギーのほとばしりで表現され、彼の自由な表象は見る者に自由や夢、そして限界のない世界を視覚的に想起させるのです。

日本での生活もまた彼の絵に影響を及ぼしました。禅の精神に触れたことで、純粹さや簡素美を尊ぶようになったのです。余分なものをそぎ落として本質を求めること。限界まで削る努力を重ねることにより、物事のコアを明らかにすること。そして隠すことによって、むしろよりよく自己表現すること。極限まで磨き上げることで、唯一重要なもの、つまり我々一人一人が内奥に持つ美である生命の息吹と、よりよい世界への希望を示しているのです。

彼の絵はまた、非常に豊かで輝くような華やかな色彩で私たちを魅了してくれます。私たちが夢見心地にさせ、美と喜びと希望のメッセージを伝えてくれるのです。温かい心を持つ創造性あふれる芸術家であるヤーハーの強い個性は、エネルギーと楽観性を放射しているのです。

ヤーハーにとって、成功はいつでも、粘り強い努力の末にもたらされるものです。大事なこと、それは大胆であり、かつ自分自身を失わないことなのです。

「違いを通じて唯一無二であれ」

ここに、見出されるべき才能があります。